ナイロビのゴミ集積場（野口健氏撮影、写真集『野口健が見た世界』より）

人がいなければ守れない

――ルールづくりと同時に人づくりが大事だと指摘されました。今年はまさに持続可能な開発のための教育「ＥＳＤ」の10年目の節目です。05年、小泉純一郎元首相の時に持続可能な社会を担う人材の育成をスタートしました。日本は正解のある問題を解くための教育は一生懸命やってきましたが、環境問題の解決はそういうものではありません。現実の課題にどう取り組んでいったら良いか、考えてくれる人材を育てないといけません。小笠原なり屋久島なりの教訓があって、富士山はこれから人材育成の面でも大変だというのは示唆に富んだ話ですね。

「自然を守っていくには専門家であるレンジャーの数が必要ですが、環境省が全て担うのは難しい。環境省は予算が限られている割に管轄範囲は生態系、温暖化、ゴミなどとても広く限界があります。富士山なら静岡県と山梨県がまず守る、これが大前提ではないかと。人は本当に大事で、ある程度お金をかけないといけない。例えば富士山にゴミを不法投棄すると法に触れ犯罪になります。それでも実際、絶えていないのが現実。規則も大事だが規則だけでは守れないです」

マナスル峰山麓の村に建設した学校の子どもたち（野口健事務所 提供）

どこまで開発し、どこまで守るのか

――自然の中の最前線に行かれる機会があるので野口さんは気づくことも多いのですね。勉強も大事だが現場で知るということが、環境を守ろうという動きに一番、つながるのだなと思います。

「なぜ登山家なのにさまざまな活動をするのかとよく聞かれます。それぞれ理屈がありますがシンプルに言うと現場に行くからというのが一番大きいです。現場で起きていることを見る、知るということは、どこかでそれを背負ってしまうこと。何か背負うと何かしなければならないのです。現場に行く前はできるだけ下調べしますが、そこで見ている情報は平ら。でも現場に行くと立体化してきます」

――私は農業や森林をテーマに学生をよくフィールドへ連れて行きますが、座学とフィールド両方が必要だと痛感しています。まさに平らなところを立体化させるバランスだと思います。今の若い世代に対し感じられることはありますか。

「子どもだけでなく大人もですが、環境シンポジウムなどに行くと開発か保護かどちらかと極端になりがちです。先ほどの小笠原の話で、以前に子どもたちと一緒に環境学校に行った時、こんなことがありました。固有種生息地での飛行場建設計画をどう思うか聞くと、当初はみんな見事に反対と言っていた子ども達が、島の建設予定地へ行ってどうしても空港が欲しい人、自然を守りたい人の両方の話を聞くと、段々と途中から色々な声が出てきたのです。海に飛行場を浮かべれば良いのではという意見、日光を遮るとサンゴに良くないという意見、定期的に滑走路を動かせないかという意見など出てきて、ここは守ろうと子どもも落としどころを探そうとするのです。これを見た時、これがまさに環境問題だと。人が生きるにはある程度は開発しなければならないし、開発しすぎると最終的に自分たちが苦しむ。どこまで開発し、どこまで守るのか、１００かゼロかではなくバランスが重要だと。そういうのは現場で多くの人に話を聞かないと分からないですね。どういう社会を作っていくのかさまざまな立場の人から聞いて、何を解決するのか実際に行かないと見えてこないのです」

――里山、ため池、棚田など人手がいなくなって廃れていく生物多様性もあります。人の使い方そのものを保全しないといけないということもありますね。ところで海外に話を移しますが、ネパールなど各国を回られていて経済的に豊かになりたいと願う国民と環境保護の必要性のギャップをどう感じていますか。

「環境はある程度先を見てやっていく活動。例えばネパールは政情が不安定だったことなどで目の前に多くの問題があるから、まだ環境という概念はものすごく弱いです。カトマンズには20年くらい通っていますが、ゴミの問題はますます深刻。赤痢やコレラも多い。温暖化で氷河が溶けることによる水害、伐採による土砂くずれなど環境問題はキリがない。ケニアのナイロビも郊外のスラム街にみんながゴミを捨ててしまい、事実上の最終処分場になっているところがあり、地下水の汚染もひどい。そのゴミためにスラム街の人や動物があさっています。途上国のゴミ問題は本当に難しい。そこをなんとか解決しないといけない」

「国際協力機構（ＪＩＣＡ）がゴミの処分場建設の支援を提案したりしますが、現地の人たちは飛行場や高速道路、病院など派手なものに目がいきがちでゴミに関心がいかない。本当はとても大事なのに。でも日本も昔は公害など環境問題があって、いろいろ取り組んでここまで来たということを、彼らに伝えていかなければならないと思います」

静脈産業にも注目を

――今、日本はエネルギーや鉄道、上下水道などを輸出するという戦略で注目が集まっているというのはいいとは思いますが、日本のグリーン技術と言った時に、生活を豊かにするものだけでなく、分解・廃棄やリサイクルなどの産業もとても重要ですね。我々も十分に静脈産業に目を向けることが少ない気がします。

「日本人はさりげなくサポートすることを好みますが、それが伝わらない時もあります。例えば今、アフリカでは中国がものすごい勢いで援助をしていて、アフリカの人は中国がすごいと言ってきます。タンザニアの農業支援センターはＪＩＣＡが30年以上年前から手がけてきており、この結果タンザニアの米の出荷量が増え、周辺諸国からも研修に来ています。ところが現地の人に、あのセンターは中国人がやっていると言われてしまう。中国の勢いが強いから地元の人も分からなくなってしまう。真面目な日本人はいいけど、これから海外でやるからには、やっていることをもっとプレゼンスした方が良いと思います」

「それと世界に貢献できる日本の技術でもっと目を向けていいのではという点では、地熱エネルギー技術に関心を持っています。地熱は熱水を取り出す時、不純物などが上がってくるからタービンがつまって故障しやすくなります。壊れにくいタービンを開発できる日本メーカーが世界の７割のシェアを持っていると言われます。日本の円借款でナイロビ郊外に建設したアフリカ初の地熱発電所を見学しましたが、アフリカでは地熱のポテンシャルが高く、これは期待できるなと感じました。でもまずは国内で生かさない手はない。温泉業者との調整や国立公園での開発の課題などありますが、工夫しながら長期視点で取り組んでほしいです」

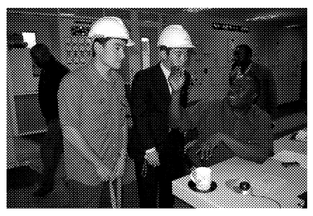
――最後に、今後やりたいことは。

「今年から始まろうとしているのはヒマラヤのマナスル峰山麓に作っている学校の周辺での森の復元です。３４００―３５００㍍の高地という環境ですが、日本でいろいろな人に相談して住友林業のサポートを受け日本の林業技術で挑戦します。マナスルは日本隊が初めて登頂したところで有名で、現地でもジャパニーズ・マウンテンと言われるような場所。そういう現地で日本の林業の技術が根付くって夢があると思うのです。」

――ありがとうございました。

■野口　健（のぐち・けん）さん

アルピニスト、了徳寺大学客員教授。
1973年、アメリカ・ボストン生まれ。
亜細亜大学卒。冒険家の植村直己氏の著書に感銘を受け、登山を開始。25歳の時に7大陸最高峰世界最年少登頂記録を樹立。以降、エベレストや富士山に散乱するゴミ問題に着目して清掃登山を開始。また地球温暖化による氷河の融解防止に向けた対策など多様な環境活動に取り組む。



左上：環境教室
右上：森林清掃活動
右下：地熱発電所の見学
左下：ヒマラヤ遠征
（野口健事務所 提供）

★インタビューを終えて

■香坂 玲（こうさか・りょう）さん

小笠原、屋久島、ネパールやアフリカ、野口さんの行動範囲の広さを改めて実感し、インタビューでは旅を一緒にしてきたような感覚さえ覚えました。今回、どのように人を育てていくのかという問題意識を共有できました。次世代の育成を見据える野口さんの熱意を実感しました。

■プロフィル

静岡県生まれ、カナダ・モントリオールの国連環境計画生物多様性条約事務局勤務を経て、０８年から１０年までＣＯＰ１０支援実行委員会アドバイザーを担う。現在は金沢大学大学院の人間社会環境研究科地域創造学専攻の准教授。

子どもも大人も同級生。みんな、行きたくなる学校があります。

TOYOTA

鳥の声や花の色、動物のあしあと。白山の森は、日々ちがう顔で迎えてくれます。
トヨタ白川郷自然學校で、生きている自然を体験してください。

世界遺産に登録された合掌集落の地、岐阜県白川郷。この白山麓のふところに、
ユニークな宿泊施設があります。トヨタ白川郷自然學校。ここは、温泉と食の恵みを堪能できるオーベルジュ。
そして、伝統文化に触れ、大自然と対話する学びのフィールドです。季節の体験プログラムや環境との共生プロジェクトに、
あなたも参加してみませんか？ 企業研修・ゼミなどでもご利用いただけます。どうぞ、みなさまでお越しください。

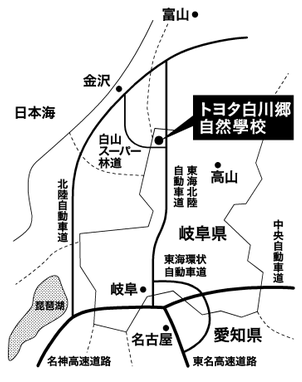
◆ネイチャーガイドなどのレギュラープランのほか、季節のオプションを揃えています。※詳細はホームページをご覧ください

レギュラープラン料金	
お1人様 1泊2食1ネイチャーガイド（消費税・サービス料込）	大人 10,600円～ ／ 子供 8,500円～

●和室または洋室、宿泊されるグループの人数に合わせた部屋をご用意します。
夕食はフレンチのハーフコース、朝食はカフェテリア方式の洋食となります。
●大人、子供ともにプラス2,000円で夕食をフルコースに変更可能です。
※年末年始等、特別期間料金を設けておりますのでご了承ください。※詳しくはお問い合わせください。

学校・企業研修等、
団体向けプログラムのオーダーも承ります。

●「新入社員」へのフォロー研修や「若手管理職もしくはリーダーシップを必要としている方々」への環境教育研修が可能です。研修対象や主旨を伺った上で、具体的な研修プログラムをご提案いたします。
●自然体験を中心としたプログラムもご要望に合わせてご提案いたします。
●学校団体の目的やご要望に合わせてアレンジいたします。



星空と温泉と自然体験のエコツアー

TOYOTA Shirakawa-Go Eco-Institute
トヨタ白川郷自然學校

ご予約・お問い合わせ　〒501-5620 岐阜県大野郡白川村馬狩223
Tel.05769-6-1187　http://www.toyota.eco-inst.jp　e-mail info@eco-inst.jp